沼津市
明治史料館通信

1999.7.25（季刊 年4回発行）Vol.15 No.2 通巻第58号

花陽楼国員画

当世武勇伝　小室弥四郎（沼津市明治史料館所蔵）

筑前黒田家の臣にて三好源右ヱ門の組なり、下総の国八幡中山舟橋辺の戦ひに賊勢大軍にて殊ニ黒田家ニハ一小隊計りの小勢にて秘術を尽し戦ひ給ひ取分小室氏ハ賊を十二三人も討ころしついに戦死をいたされたり

江原素六とその周辺〈34〉

戊辰戦争での格闘相手 小室弥四郎の錦絵

江原素六は戊辰戦争の際、江戸開城後、脱走して抗戦を続ける撤兵隊を率いた。討伐に向かった長州・薩摩・佐土原・津・岡山・福岡の諸藩から成る官軍とは下総で交戦に及んだ。混戦の中で敵兵に組み伏せられ、危うく部下の古川宣誉（後の陸軍中将）に救われるという場面があったことは後々まで語り草となった。慶応四年閏四月三日のことである。敵の名は小室弥四郎基直といい、五十九歳の筑前福岡藩士であった。小室は、駆けつけた古川ややはり江原隊の近藤三四郎（義尚）・野口保三らによって倒され戦死した。ちなみに古川・近藤・野口とも後に沼津兵学校の資業生になった人物である。危機一髪で命拾いした江原であったが、その直後、左足に銃弾を受け、撤兵隊も敗走することになる。

この戦闘に参加した福岡藩兵は約二百名、うち六名が戦死した。小室の墓標は隊長の矢野安太夫の手によって建てられたが、後明治十九年（一八八六）千葉県が墓碑を建て直した。それは船橋市に現存する。後年、江原は古川と当時を懐古し、小室の遺族があれば扶助したいとその存否を尋ねたが、見つけられなかったという。

前ページに掲載した写真は、小室弥四郎の奮戦ぶりを描いた錦絵であり、戊辰戦争からまだ間もない時期に発行されたものと思われる。この絵を描いた国員は、三代豊国系の大阪の絵師で、歌川を名乗った人と思われる。

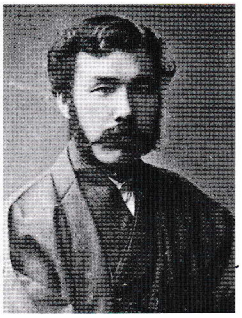
〈参考文献〉安川巌『物語福岡藩史』（一九八五年）、船橋市郷土資料館「市川・船橋戦争の遺跡」『資料館だより』第35号（一九八五年）、『江原素六先生伝』（一九二三年）、吉田暎二『浮世絵事典』上巻（一九七四年）、「両総戦争」『沼津市明治史料館通信』第3号（一九八五年）

ぬまづ近代史点描 ㊶

明治期沼津の写真師 鈴木忠視

明治期の沼津を代表する写真師に鈴木忠視がいた。彼は伊豆国賀茂郡岩科村（松崎町）の出身。親族にあたる鈴木真一が明治五年（一八七二）に横浜に開いた写真館で技術を学び、真一の女婿圭三にも就いた。鈴木真一は下岡蓮杖の弟子で、やはり伊豆の岩地村（松崎町）の人である。

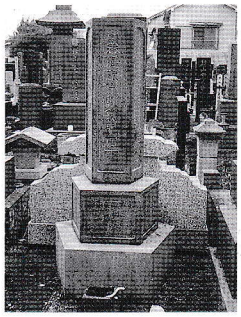
忠視は明治十四年（一八八一）師のもとを辞し、長崎から上海に渡った。長崎までの途次各地の写真師たちに新技法を教えながら西下したという。上海で写真館を営業、蓄財の後、帰国したのは明治二十四年（一八九一）だった。同年末沼津町城内で開業、以後この地を活躍の場とし、静岡江川町にも支店を設けるなど、名声が高まった。明治四十年（一九〇七）五十九歳で病没した（島岡宗次郎編『月の鏡』一九一六年、一九九八年復刻、筑紫紙魚の会）。


鈴木忠視
（『月の鏡』より）

沼津市幸町の永明寺には、五角柱の形をした彼の墓があり、以下の銘文が刻まれている。

養源院良峰義忠居士
鈴木忠視君墓陰記
赤瀬鈴木忠平代撰

先君名忠視伊豆賀茂郡岩科邑人鈴木文吉第三子也嘉永二年十一月廿二日生天資豁達不屑終於辺隅明治四年往横浜従鈴木真一究写真術十四年挾其技遊清国上海居十年頗致富廿四年去之来駿河創一家于沼津町城内而住四十年十二月四日病歿


鈴木忠視の墓
（永明寺）

享年五十九葬于永明寺新塋蓋先君之於写真術造詣甚深大日本写真大会擢斯援之巧者廿余名於邦内而褒之先君亦與矣

明治四十一年六月

孝子鈴木次郎作謹誌

素堂鳥沢恭三篆隷

撰文を担当した鈴木忠平は、沼津尋常小学校長をつとめた人で、種玉庵（彩江廬）赤瀬を名乗った俳人でもあるが、忠視との血縁関係はないようだ。

墓石や同寺の過去帳などによると、忠視の先妻勢以子は、伊豆の松田六治郎長女で、明治二十年（一八八七）七月三十一日、上海において三十三歳で亡くなっていること、後妻は京都の益井青芥長女千賀子で、沼津で三十四歳で没したことなどがわかる。

鈴木が撮影した写真は数多く残されていて、よく目にすることができる。また、当時発行された案内書には必ず広告が掲載されている。『沼津の華』（明治三十四年刊）には、鈴木・村上（上本町）・金子（上本町）の三軒の写真師が掲載されているが、鈴木については以下のように他に比べ記述も多い。

「○鈴木　條内にあり主人は鈴木忠視氏にして写室器具大に整い最も斯業の妙技に精通し優美の名を以て知らる同店は静岡市に支店あり」。『沼津漫遊之栞』（明治三十九年刊）には、「鈴木写真所」として広告が掲載されている。また『沼津之栞』（明治四十一年刊）には「鈴木写真店」として、杉本写真館（上本町）とともに掲載されている。

ところが、『沼津三島の花』（大正十四年刊）の掲載広告は、沼津の写真館は吉口写真店（向川岸）・杉本写真館（本通り）の二軒のみであり、鈴木の名は見当たらない。忠視没後、息子次郎作が跡を継ぎ、現に「T. SUZUKI」ではなく「JS」と印刷された台紙付の写真も存在するが、次郎作のその後について不明である。

シリーズ　沼津兵学校とその人材　54

第一期資業生　西尾政典

沼津兵学校資業生のうち、第一期生は僅か五名であり、及第時期も不明である。第二期が明治二年（一八六九）四月及第なので、それ以前となる。開成所の学生だった者が多いため、後輩から「開成所連」と呼ばれたという。五名とは芳賀可伝・西尾政典・服部二郎・矢橋裕・佐々木慎思郎であるが、比較的経歴等がわかっているのは芳賀・佐々木のみである。

西尾政典
（下山晃子氏提供）

西尾政典については、従来、旧名を祐三郎といい、私立鉄道の技師になったという程度しか紹介されてこなかった。しかし、最近、彼の生没年が判明した。生まれは嘉永五年（一八五二）八月十二日、亡くなったのは大正十二年（一九二三）十月十八日。

履歴については諸文献から断片的に以下のことがわかる。政典の祖父は嘉八郎といい表右筆をつとめた人。父は錦之助（後に政徳と改名）といい、表右筆、寛政重修諸家譜書継御用助筆などを歴任、幕府瓦解時は開成所頭取の職にあった。錦之助は、駿河移住後の明治元年十一月、活字器械を政府に献上する際の御用をつとめた。

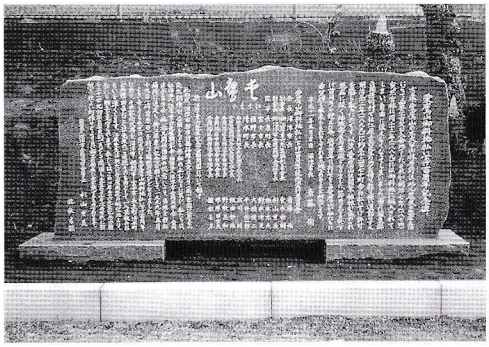
政典は慶応三年（一八六七）三月、十六歳の時、勝海舟の息子小鹿らとともに、横浜での英学伝習生の一人に選抜されている。維新後は父とともに沼津に移住、明治二年二月時点では、沼津兵学校一等教授並渡部温の塾生となり、兵学校の受験準備をしていた。明治三年時点では海軍兵学寮大得業生になっており、すでに上京していた。翻訳書に『曲線表』（明治二十六年刊）・『桁構新書』（同三十四年刊）などの工学書がある。後者の奥付によると当時は大阪・神戸に住んでいたらしい。

〈参考文献〉倉沢剛『幕末教育史の研究一』、『江戸幕臣人名事典』、『静岡県史資料編16』、田村貞雄編『徳川慶喜と幕臣たち』

お知らせ欄

◎江原素六銅像の移転と愛鷹山払下げ百周年記念式典

去る五月十九日、市内西熊堂において江原素六先生記念公園の開園、江原素六銅像の移転除幕、愛鷹山御料地払下げ百周年記念式典が行われました。旧江原公園が道路計画にかかり移転することになったためで、あわせて今年が明治三十二年（一八九九）の愛鷹山払下げから百年にあたることでその記念式典も同時に行ったものです。新公園は旧公園から約五百メートル北に登った位置になります。



愛鷹山御料地払い下げ百周年記念碑

◎企画展「岳陽少年団」の開催

大正時代に沼津で生まれた岳陽少年団は、全国屈指の大組織に発展し、戦前期日本の少年団政策を先取りする、ボーイスカウトとは違うユニークな活動を行ったことで知られます。沼津の子どもの歴史上欠かすことのできない存在でもあり、ある年齢以上の方々にとっては懐かしい思い出でもあります。今回の企画展ではその関係史料を多数集め展示・紹介します。

期間：7月1日(木)から9月29日(水)まで

※6月22～30日、9月30日～10月7日は、展示替作業のため3階展示室一部閉鎖。

会場：3階北側展示室

図録：『図説岳陽少年団』、B5版、70頁（内カラー4頁）、頒価一〇〇〇円

岳陽少年団の前身沼津少年団の入団式

◎歴史講演会の開催

企画展に関連して岳陽少年団についての講演会を開催します。

講師：田中治彦氏（立教大学文学部教授）

演題：「日本の少年団運動における岳陽少年団」

日時：8月1日(日)午後二時から四時まで

会場：当館講座室

定員：一〇〇名

◎平和を考える親子戦争史跡めぐりの開催

マイクロバスで市内に残る戦争関連の史跡をまわります。左記の要領で参加者を募集します。

日時：8月13日(金)午前9時から午後4時まで

対象：小中学生とその保護者

定員：10組20名

費用：無料。弁当持参のこと。

申込み：当館まで電話で。受付開始は7月20日(火)。

◎古文書解読入門講座の開催

以下の日程で、はじめて古文書に接する方を対象として初心者講座（全五回）を開催します。

日程：9月5日、12日、19日、26日、10月3日の各日曜日。

時間：午後2時～4時

講師：久保田富氏（市史編さん専門委員）

定員：40人

申込み：電話で先着順（受付開始は8月10日）。

費用：教材費のみ実費で。

◎『沼津市博物館紀要』23の刊行

体裁：B5版、九〇頁。

頒価：一〇〇〇円

内容：樋口雄彦「沼津兵学校附属小学校教授永井直方の日記」、瀬川裕市郎「擬餌針とカツオ釣り」、守屋豊人「修善寺町池の本遺跡出土土器の再検討」

沼津市明治史料館通信　第58号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂三七二―一
電話　〇五五九―二二―三三三五
FAX　〇五五九―二二―五三〇一八